

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100330		
法人名	社会福祉法人さつき会		
事業所名	多機能型グループホーム鷹栖なごみの家 和ユニット		
所在地	〒071-1201 北海道上川郡鷹栖町南1条1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成25年12月30日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1 無垢の木材や木製の家具を使用し、落ち着いた雰囲気的空間にしている。</p> <p>2 職員全体で作り上げた事業所独自の理念を掲げている。</p> <p>3 小規模多機能ホームを併設しており、小規模ホームの利用者との交流をもっている。</p> <p>4 周辺の中学校や高校のボランティアの受け入れを行っている。</p> <p>5 事業所内で基礎介護研修を実施し、職員のスキルアップを図っている。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100330-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年1月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、同一母体法人の小規模多機能型居宅介護事業所と併設され、木材が多く使われた温もりを感じられる造りとなっている。法人が開設していたデイサービスや併設の小規模多機能事業所を利用していた方が多く入居しており、利用者は馴染みの関係、馴染みの仲間として安心して暮らしている。事業所では、利用者の個性に着目し、一人ひとりの持っている力や想いをどのように生活に反映していくかを職員一丸となって考えている。食事、入浴、排泄、住まいの在り方について、人として人らしく感じることができるよう、様々な場面で工夫が見られる。自然な排便のための麦飯や玄米の導入、特殊浴槽ではなく一般浴での対応、食材の形態の工夫、口から摂取できる喜びを感じてもらう実践、生活に合わせた住宅改修、冬期間の湿度の管理などを、事業所が独自に進めるのではなく、事前に家族や利用者十分に話し合い、検討を重ねたうえで実施している。これらのことが、実際の成果として結果に現れている。基礎介護研修を繰り返し行い、そこから得られる内容を職員が自ら洗い出し、何ができるかを常に考えている。利用者や家族、そして職員にとっても安心して暮らせる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・開設前に全スタッフで研修し、なごみの家独自の理念を作っている。 ・月1回の全体会議で理念を唱和している。	事業所独自の理念が作られ、常に意識できるように、毎週職員が交代で目標を提示して、心の持ち方や利用者へのケアの実践に繋げている。週の目標を日誌やホワイトボードに記載し、利用者が生きる喜びを共に感じられるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・地域で行われる行事や催し物には利用者と一緒に参加している。 ・地域の方のサークル活動の発表の場として提供し、楽しませて頂いている。	お話しボランティアの受け入れや、エレクtoon演奏披露で地域の方と交流している。地域で開催されるイベントに出かけることで、知人と会う機会を大切にしている。以前開設していたデイサービスや小規模多機能事業所を利用していた方が入居しており、日常的な交流や馴染みの関係が安心に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・見学者の受け入れや、人材育成の貢献として、地元の中学校の職場体験研修を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・約2ヶ月に1度会議を開催し、運営状況・事故・苦情等を報告し、委員から質問・意見・要望を受け、サービス向上に活かしている。	多彩なメンバー構成で定例開催を続けている。活動報告や取り組み内容についての経過報告、出席者との意見交換が活発に行われている。会議録は、面会時に内容が確認できるように書類として備えている。また、前回の課題であった会議録の配布についても検討し、今後も参加していない家族と情報の共有ができるように、検討を続けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・必要に応じ、町の担当者と情報共有を図っている。 ・役場の新人研修として1日体験の受け入れを行っている。 ・利用者の介護保険の更新や各種手続き、ケースワーカーとの連携も常に行っている。	運営推進会議には町の担当者の出席があり、情報の提供や現状の報告がある。手続きや相談、問い合わせには直接窓口に出向き、信頼関係も築けている。ケースワーカーとの連携や地域ケア会議の開催もあり、内容については法人内で共有している。法人では、毎年町職員の新人研修を受け入れており、事業所でも対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・会議で身体拘束について確認し、職員の共通認識を図っている。 ・職員自身が身体拘束を体験している。	身体拘束や虐待について年2回事業所内で研修を行い、具体的な行為を確認している。職員は自らベッド上の拘束やおむつ装着を行い、どう感じるか、不快感を体験で感じ取っている。生命の危険や事故の予測が想定される場合の止むを得ない対応については、事前に家族や利用者とは十分に話し合っている。取り外しについても常に検討し、実際に終了しているケースも多々ある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の研修会を実施し、職員の共通認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全職員ではないが、認知症実践者研修に参加し、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書、重要事項説明書をもとに詳しく説明し、納得を得るようにしている。 ・契約の改訂をする場合は、利用者・家族によく説明し、納得を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関にご意見箱を設置している。 ・苦情申し出窓口を玄関に明示している。 ・運営推進会議にご家族も入っている。 ・家族会はないが、大掃除や焼き肉、忘年会には多くの家族に参加頂いている。	家族会はないが、イベント開催の時に家族同士が交流できるように配慮している。家族の積極的な協力があり、大掃除や食事会には大勢の参加がある。面会時には日頃の様子を細かく伝え、要望も聞いている。計画作成時には直接意見や要望を聞き、大切に受け止めている。また年1回全家族と利用者、職員に向けてサービス満足度調査を行い、ケアや計画に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日々のミーティング、月1回の会議等で意見を聞くようにしている。 ・年1回、代表者が人事調書を取り、その中で意見・要望を聞いている。 ・面談制度があり、年2回意見を聞く機会を設けている。	月1回全体・各ユニット会議が開催され、意見交換の場が設けられている。担当制であり責任を持って気付きや提案、モニタリングを記録している。法人施設長が訪問し、直接現場の職員と交流する場面もある。組織段階別に面談する体制もあり、要望や意見を伝える機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の資格取得に向けた支援。(助成金・受講料・貸与制度の実施) ・面談制度の実施。 ・リーダー会議に参加し、現状や変化を知り、職員の努力や成果について把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人研修にはエルダー制度を実施し、育成に取り組んでいる。 ・法人内・事業所内でも研修会を実施し、外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者については、高齢者ケア研究会に参加し、道内外の施設との勉強会・交流を図っている。 ・スタッフに関しては、研修会での交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・必ずご本人と会い、心身状況や思いに向き合い、受け入れられる関係作りに努めている。 ・事前面談で生活状況を把握するよう努めている。 ・担当を決め、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談する家族の立場に立ってゆっくり話を聞き、思いを受け止める努力をしている。 ・ご家族が求めていることを理解し、事業所として何が出来るのか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方と家族にとってどのような支援が必要か考え、他職種と連携しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の思いや、根本にある苦しみ・不安・喜びを知ることに努めている。 ・ご本人の得意な分野を活かし、時には孫や生徒になって共に支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や外出・外泊は自由で、その際の情報共有を蜜に図るよう努めている。 ・利用者に変化があれば、ご家族と共に今後のケアを考えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域での催しには参加し、馴染みの人との関わりが出来るよう努めている。 ・入居前に通っていた小規模多機能ホームに遊びに行ったりしている。	法人内の他のサービスを利用するなかで、住み替えをして入居した利用者も多く、馴染みの関係があり安心して暮らしている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所との交流もあり、利用者の楽しみとなっている。趣味の絵画の展示や書道、塗り絵、縫物など、できる力を発揮している場面が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ゲームやかるた、体操等を通じ、利用者同士が関わりあえるよう職員が間に入りながら支援している。 ・利用者同士の関係性については、心身の状態や気分・感情で日々時々変化することが多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・はがきや年賀状を出している。 ・来訪された際は、お茶を出し一緒に会話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、本人の思いを理解することが出来るよう、利用者の言葉や表情から読み取るようにしている。また、アセスメントを独自のものとし、意向をケアに活かしている。	家族の希望や意向は、面会時や直接連絡して把握に努めている。本人には直接話をしたり、日常の会話や表情から想いをくみ取るようにしている。年1回行っている満足度調査のアンケートも活用し、利用者本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前にご本人や家族から聞き取りをしている。 ・生活の中で見る言動について家族へ報告時、その言動に伴う生活暦等を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常の様子から、できること・できないこと、わかること・わからないことの把握に努め、その時の認知度・理解度を考慮し、その人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日ごろの関わりの中で、本人・家族の思いや意見を聞き、毎月職員でモニタリング・カンファレンスを行い、介護計画へ反映している。	認知症対応型共同生活介護計画書用のソフトを活用し、アセスメントを取り直すことで状況の変化を確認している。更新時は、担当職員がこれまでの記録を読み込み、実施状況を記載している。これを主任が確認して議案書に記載し、その後全職員がカンファレンスで検討して現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・食事・水分・排泄等の身体状況の記録と、暮らしの様子や本人の言葉を記録している。 ・週単位で状況が見れるようにし、小さな変化にも気づけるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・重度化した場合や、終末期ケアを支援している。本人・家族の思い、医師を交え医療の必要性等をよく話し合い検討し、その時々状況に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域での催しには出来る限り参加し、定期的にボランティアの協力も得る取り組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医がごみ目の家の目の前ということもあり、本人・家族納得の上、利用後ほとんどの方は協力医をかかりつけ医としている。健康面で不安があるときは助言・検診を受けている。	かかりつけ医の通院については事業所で対応しているが、他の病院や必要時には家族と一緒に受診している。事業所内での状況を医師に伝え、適切な医療を受けられるように支援している。受診後の状況は毎月発行される個別通信で伝えて、緊急な時は直ちに連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師(非常勤)が1名おり、日常の健康管理・リハビリ・相談を行っている。 ・併設の小規模多機能ホームや同一法人内の看護職と相談・協力ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・重度化・終末期ケア指針があり、意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明している。家族・医師を交えて話し合い、変化があるごとに本人・家族の気持ちの変化・思いに注意を払い支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化・終末期ケア指針があり、意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明している。家族・医師を交えて話し合い、変化があるごとに本人・家族の気持ちの変化・思いに注意を払い支援に努めている。	重度化や終末期に向けた方針、指針が定められ同意が得られている。家族には事業所のできる最大のケアについて説明し、協力病院との連携でターミナルの対応を行っている。また、意思確認書を作成し細かく説明することで、家族も安心して終末期が迎えられるよう取り組んでいる。事業所では看取りの経験も多くあり、職員に対して重度化の対応の研修も強化している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命法の学習を消防の協力を得て、年1回事業所で実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防の協力を得て、年2回利用者と共に避難訓練を実施している。	消防の協力の下で、日中・夜間を想定した訓練を毎年続けている。備蓄や避難については、法人本部や併設の他の事業所と協力し、万が一に備えた対応となっている。停電に備え、ストップやカセットコンロも置いている。緊急時に備えた各種研修も、随時行っている。	火災や災害時には、地域の協力が欠かせないものであり、相互協力の下助け合う気持ちと、事業所の実情に理解を得るためにも、一緒に訓練に参加してもらうことが望まれる。地域の方の参加もある運営推進会議と合わせて訓練を実施し、訓練後に感想やアドバイスをもらう機会を設け、災害時の対応を検討できることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・声かけや介護する際は、常に相手の立場になり、聞かれるよう全職員が心がけている。	利用者の尊厳や人格を大切に思うケアに努めている。気になる会話があった時は管理者が促し、会議でも取り上げ確認している。職員同士が注意し合える環境作りに向け、常に研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・選択肢を提案し、利用者が自分で決める場面をつくるよう心がけている。意思表示が困難な方には、表情をみて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・事業所内での1日の過ごし方はあるが、個々のペースに合わせた支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・日常生活の中や外出時にも衣類を選んでもらったり、お化粧をしておしゃれをする楽しみを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員が利用者と同じテーブルを囲み、楽しく食べられるよう雰囲気作りに配慮している。 ・月1回手作りおやつを実施したり、流しそうめん、鍋会等食事を楽しめるよう企画・実施している。	外で焼き肉を楽しんだり、出前を取ることで雰囲気を変えたり、誕生日には職員と一緒に外食の機会を作っている。また、排泄のコントロールが自然な形態になるように玄米食や麦飯を導入している。事前に利用者、家族へ説明し理解を得て、何回も試食を繰り返して利用者の食べやすさに配慮しており、その成果が現れ、健康状態の改善がみられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分の摂取量を個別記録に記入し、職員が情報共有している。 ・嚥下機能が落ちて安全に食事をする事ができるような寒天やソフト食を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、就寝時に歯磨きを行っている。 ・全員ではないが、毎食後に歯磨き・うがいを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を活用し、排尿パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。 ・本人の状況を把握し、日中と夜間のおむつ形態を変えて支援やおむつ外しに取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ排泄を基本に対応している。利用前の状況が入居により改善された利用者も多く、排泄の自立に向けたその人らしい生活のケアに、特に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定時にトイレに座って頂き、排便習慣を促す。 ・寒天やオリゴ糖、ヨーグルトの摂取、主食に麦飯、玄米粥を提供し自然排便を促す。 ・水分チェック表を活用し、水分不足を解消。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・曜日や時間は決めているが、本人の希望があった時は入浴できるよう支援している。 ・入浴を拒む方に対しては、いつでも入れるように支援している。	週に2回は入浴できるように、利用者の要望に合わせた対応となっている。事前に利用者や家族と話し合いリスクマネジメントも行い、利用者が本当に気持ち良く入浴できているのか思いを汲み取っている。特別浴の設備もあるが、できるだけ普通の入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間の睡眠パターンを把握し、日中の活動を促している。 ・眠れないときは温かい飲み物を飲んで頂く等し、リラクセスできるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ユニットで服薬ファイルを保管し、職員が服薬内容をいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯物量み等を役割として取り入れ、外出や塗り絵、生け花など得意なことをレクリエーションとして楽しんで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気のよい日は散歩やドライブに出かけ、気分転換を図っている。 ・冬期間の外出は難しいが、町内の催しに出かける機会を設けている。	夏場は近隣の散歩や日光浴で外気に触れ、地域で開催されるイベントには、できるだけ出かけられるようにしている。法人開催の「さつき祭」では特養の職員や利用者と交流したり、鷹栖町祭りの花火大会には、ボランティアの力も借りて全員が車いすで出かけ、夜空のショーを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者一人ひとりの能力に合わせて支援しているが、お金を所持したいという方はいない。本人の使用したいときに使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があれば使用して頂いている。 ・手紙のやり取りも希望があれば支援していく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・木の家具を使い、温かさを出している。 ・季節に合わせた飾り付けに心がけている。 ・食事を作る音やにおいで生活感を出している。 ・施設感がないようにできるだけ家庭に近い設えに心がけている。	利用者は日中の殆どをリビングで過ごしており、家族が来た時やゆっくりしたいと思う時はソファが置かれた所など、気分に合わせて場所を選べるようにしている。特に冬期間は湿度の管理に気を使い、50パーセントを下回らない配慮もされている。適切な健康状態の維持に努める工夫が随所に見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂とリビングが独立し、各自自由に使える場所がある。ソファを用意し、利用者同士がくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具や馴染みの日用品が持ち込まれており、自分らしい居室となっている。	和と洋に分かれた各ユニットの居室には、ベッドや洗面台が設置されている。利用者ごとに個性ある設えとなり、安心して過ごせるように家族の写真や使い慣れた筆筒、寝具が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の状態にあわせ、て居住環境が適しているか見直し、手すりの設置や張り紙等、安全確保と自立への配慮をしている。		